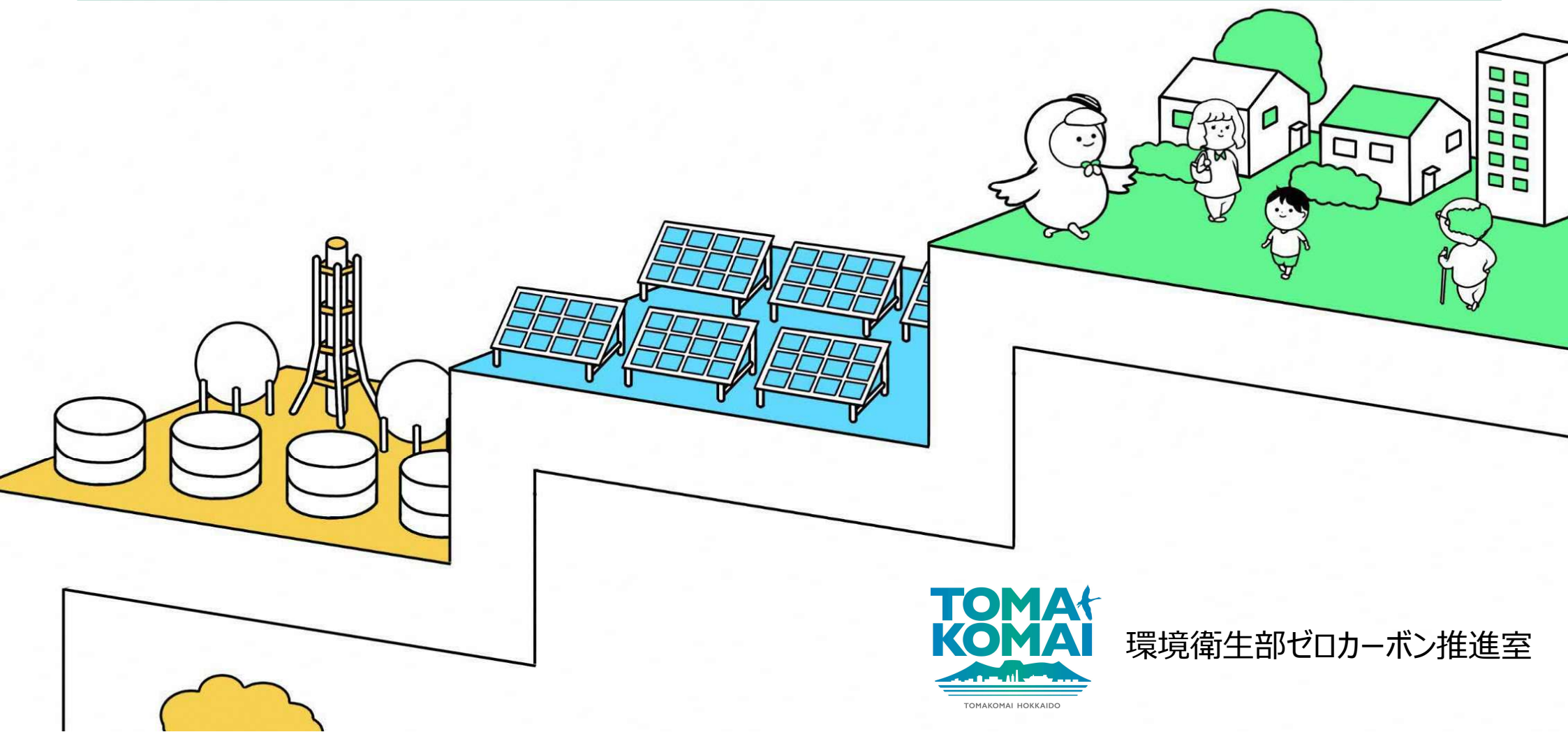


# 苫小牧市環境基本計画～ゼロカーボン推進計画～ 改定に係る部会の設置について



## 〈苫小牧市環境基本条例〉

(環境基本計画)

第9条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、**環境の保全及び創造に関する基本的な計画（以下「環境基本計画」という。）を策定**しなければならない。

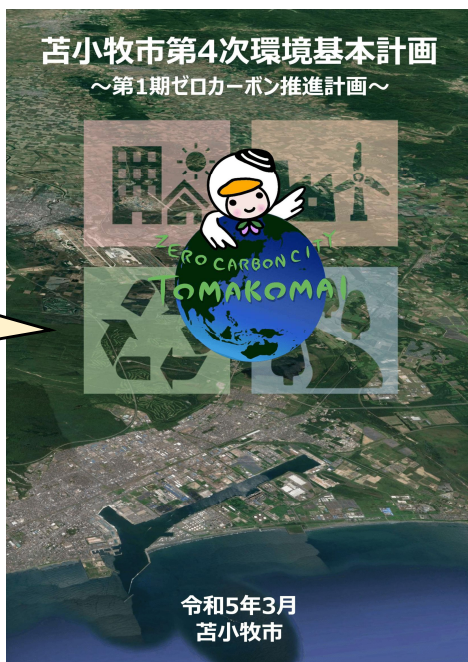
2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- (1) 環境の保全及び創造に関する**長期的な施策の目標**
- (2) 環境の保全及び創造に関する**施策の基本的事項**
- (3) 前各号に定めるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策の推進に必要な事項

## 〈第4次環境基本計画～第1期ゼロカーボン推進計画～〉

**【計画期間】**  
2023年～2030年（8年間）

今年度が計画期間における中間年となる



基本目標・アクションプラン

温対法

苫小牧市地球温暖化対策  
地域推進計画（緩和策）

適応法

苫小牧市気候変動  
適応計画（適応策）

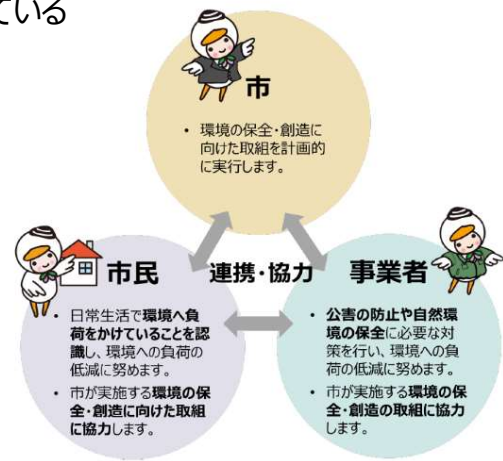


# 計画の構成とCO<sub>2</sub>排出削減目標

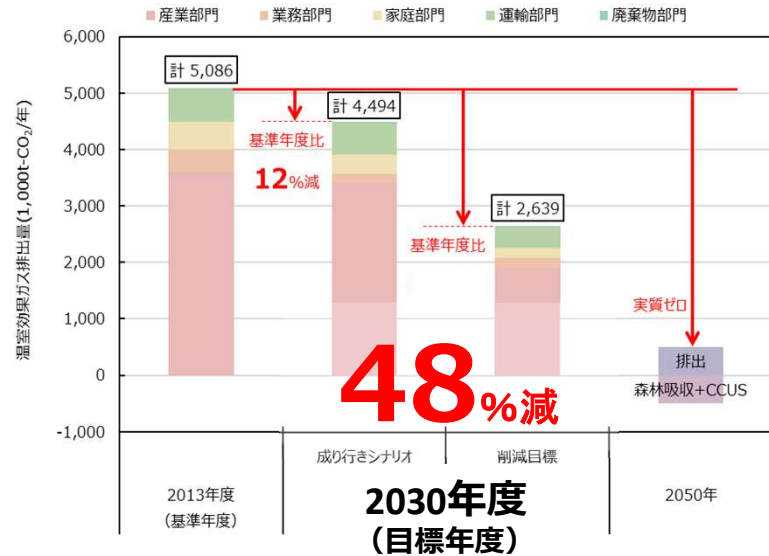
4つの基本目標と15の基本施策（アクション）で構成

基本目標	基本施策（アクション）
<b>基本目標1</b> 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし	① エネルギーを節約しよう！
	② CO <sub>2</sub> の少ない製品・サービスを選ぼう！
	③ ゼロカーボンな住宅・オフィスをつくらう！
	④ ゼロカーボンなまちをつくらう！
	⑤ 環境対策の大切さを知ろう！
<b>基本目標2</b> 実現しよう！ゼロカーボン産業都市	① エネルギーの地産地消を進めよう！
	② 産業全体で取組を拡大しよう！
	③ 新技術に取り組む産業の輪を広げよう！
<b>基本目標3</b> 目指そう！資源が循環する053のまち	① ごみを減量しよう！
	② リサイクルに取り組もう！
	③ きれいなまちを目指そう！
<b>基本目標4</b> 守ろう！豊かな自然とみんなの未来	① 苫小牧の多様な自然環境を守ろう！
	② まちの緑を守ろう！
	③ 公害を未然に防ごう！
	④ 気候の変化に備えよう！

推進主体は市・事業者・市民であり、それぞれが取り組む具体的な項目（実施計画）が記載されている



## 〈市域全体におけるCO<sub>2</sub>排出削減目標〉



## 〈部門別の削減目標〉



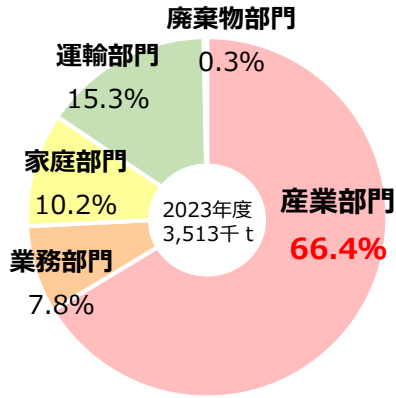


# 苫小牧市域におけるCO<sub>2</sub>排出量【2023年度（令和5年度）速報値】

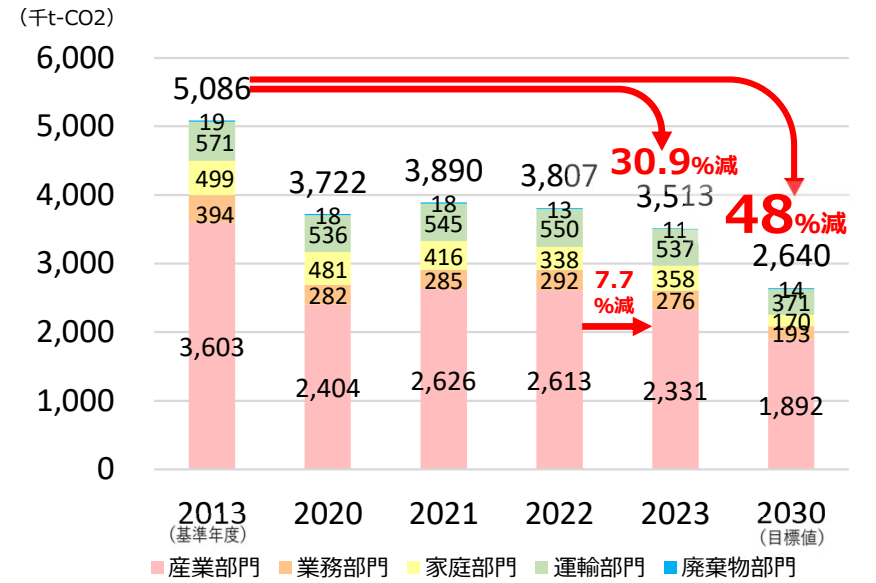
- 苫小牧市域全体における2023年度のCO<sub>2</sub>排出量は**3,513千t-CO<sub>2</sub>**で、基準年度（2013年度）比で**30.9%の減少**、前年度（2022年度）比で**7.7%の減少**となっています。
- 部門別では、産業部門の排出量が全体の約7割を占めていることが本市の特徴となっています。

## 1) 部門別CO<sub>2</sub>排出量構成比

分類	2023年度 排出量 (千t-CO <sub>2</sub> /年)	構成比	2013年度比 (基準年) 削減率	2030年度 (目標年度)
産業部門	2,331	66.4%	▲35.3%	企業目標 または▲38%
業務部門	276	7.8%	▲29.9%	▲51%
家庭部門	358	10.2%	▲28.3%	▲66%
運輸部門	537	15.3%	▲6.0%	▲35%
廃棄物部門	11	0.3%	▲42.4%	▲25%
合計	<b>3,513</b>	100%	▲30.9%	▲48%

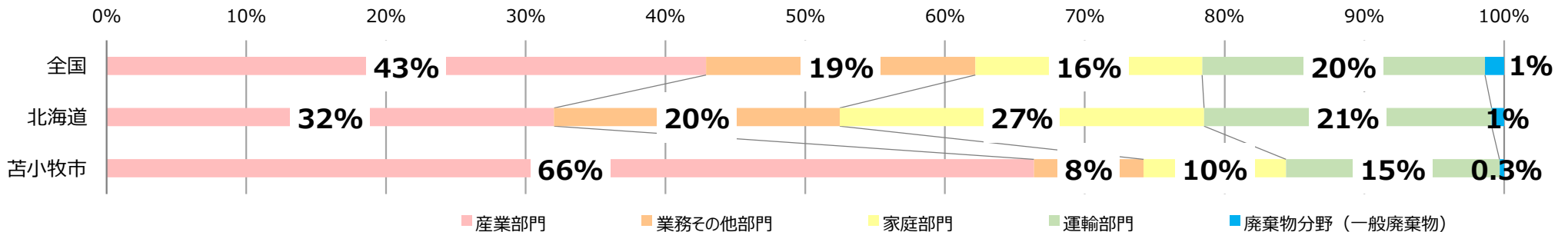


## 2) 部門別のCO<sub>2</sub>排出量の経年変化



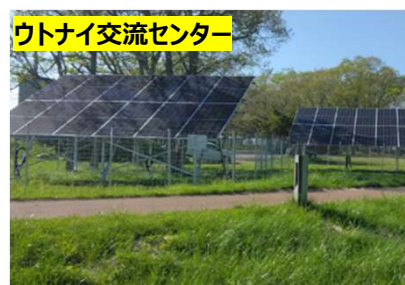
## 3) 部門別CO<sub>2</sub>排出量構成比の比較（都道府県平均及び全国平均）

※構成比は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。



## 基本目標 1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

- 令和 5・6 年度に市有施設10施設にPPA方式で太陽光発電設備を導入
- 令和 7 年実績として、10施設合計で548tのCO<sub>2</sub>を削減した。（一般家庭 約110世帯分に相当）



本庁舎に設置した啓発モニター

〈PPA10施設における令和 7 年実績（令和 7 年 1 月～1 2 月）〉

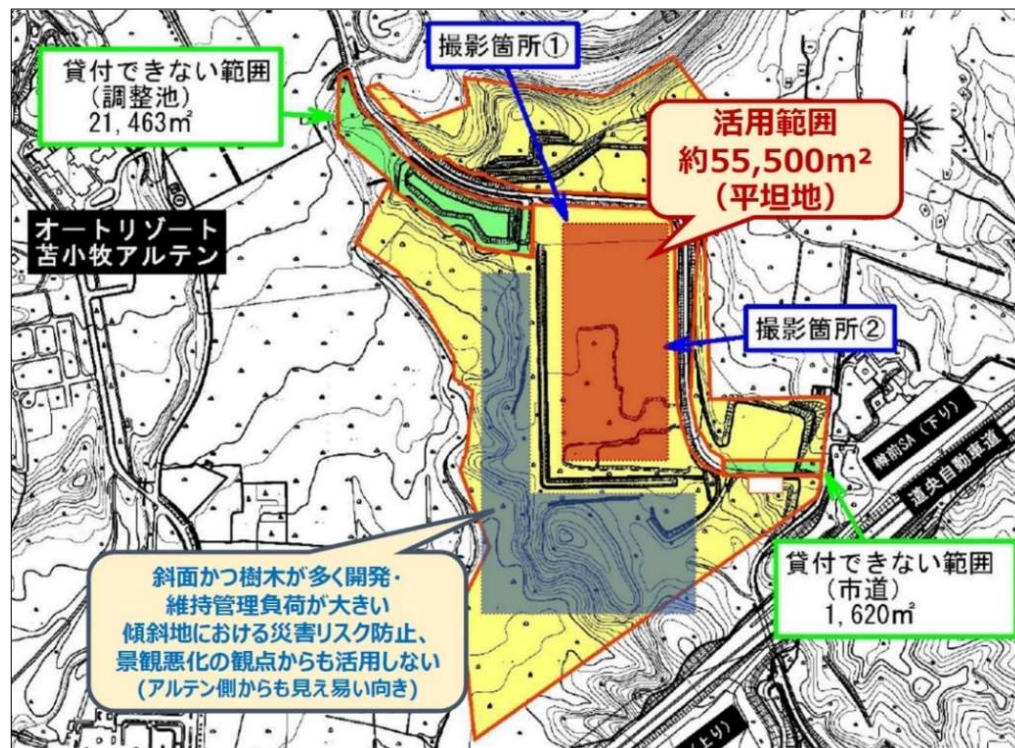
施設名	発電開始	設置容量	自家消費量	CO <sub>2</sub> 削減量
アブロス沼ノ端スポーツセンター	令和6年4月	189.2 kW	134,190 kWh	70.0 t-CO <sub>2</sub>
ウトナイ交流センター（道の駅ウトナイ湖）		55.6 kW	50,212 kWh	26.4 t-CO <sub>2</sub>
第 1 学校給食共同調理場		209.2 kW	170,163 kWh	88.7 t-CO <sub>2</sub>
第 2 学校給食共同調理場		149.4 kW	123,303 kWh	64.4 t-CO <sub>2</sub>
苫小牧東小・中学校		145.2 kW	116,722 kWh	58.2 t-CO <sub>2</sub>
啓北中学校		48.4 kW	41,033 kWh	20.0 t-CO <sub>2</sub>
青翔中学校		74.8 kW	53,166 kWh	27.1 t-CO <sub>2</sub>
消防本部（防災訓練センター）	令和6年7月	110.9 kW	93,540 kWh	48.9 t-CO <sub>2</sub>
高丘霊葬場	令和6年11月	104.4 kW	78,073 kWh	36.8 t-CO <sub>2</sub>
市役所本庁舎	令和7年1月	271.4 kW	211,548 kWh	107.7 t-CO <sub>2</sub>
合計		1,358.5 kW	<b>1,071,950 kWh</b>	<b>548.3 t-CO<sub>2</sub></b>

基本目標 1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

〈優先交渉権者〉 北海道ガス（株）

〈提案内容の概要〉

項目	内容
電力供給方法	オフサイトPPA方式
設置容量	AC 1,990kW、DC 3,962kW
発電事業期間	令和10年度から20年間 (令和9年度 現地工事開始)
電力供給量	415万 kWh/年
CO <sub>2</sub> 削減量	2,262 t-CO <sub>2</sub> /年
供給先	市有施設 59施設 ✓ 発電した再エネ電力は <b>全量市有施設に供給</b> ✓ 市有施設全体における <b>使用電力量の約36%がCO<sub>2</sub>フリー化</b>
活用する財源	✓ 環境省地域脱炭素移行・再エネ交付金（重点対策加速化事業）を約3億円活用
周辺環境・景観への配慮	✓ アルテン側から見える傾斜地および設備道路側の樹木を残し、パネルの高さを抑えることで景観に配慮
地域経済への貢献	✓ 工事や維持管理において、7事業者以上の市内企業を活用 ✓ 電気契約においては苫小牧ガス(株)と連携
その他独自提案	✓ 市内の子どもたちから発電所の愛称を募集し、地域に根差した発電設備を目指す



〈電力供給スキーム〉



図. 市有施設への電力供給スキーム

出典：北海道ガスからの提案書をもとに作成



## 基本目標 1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

- 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業、脱炭素先行地域づくり事業）などを活用しながら、市民や中小企業向けに再エネ・省エネ機器の補助事業を実施。

### 〈累計実績（R5～R7）〉

補助金名	対象	対象機器	件数	容量	CO <sub>2</sub> 削減効果	財源※
ゼロカーボンハウス 促進補助金	一般家庭	ZEH+	9	-	35.7 t-CO <sub>2</sub> /年	重点
		太陽光発電設備	265	1,615 kW	993.2t-CO <sub>2</sub> /年	重点、先行
		蓄電池	309	2,737 kWh	-	重点、先行、市単独
		エコキュート	320	-	512.0t -CO <sub>2</sub> /年	重点、先行
		HEMS	34	-	-	市単独
苫小牧市立地企業 サポート事業補助金	中小企業	太陽光発電設備	7	92.6 kW	54.9t-CO <sub>2</sub> /年	重点+市
		蓄電池	7	125 kWh	-	重点+市
<b>合計</b>			<b>951</b>	<b>-</b>	<b>1,595.8 t-CO<sub>2</sub>/年</b>	<b>-</b>

※財源について、「重点」は環境省重点対策加速化事業、「先行」は環境省脱炭素先行地域づくり事業、「市単独」は市一般財源で単独事業、「重点+市」は重点に市一般財源を上乗せした協調補助事業を指す。

基本目標 1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

基本目標 2 実現しよう！ゼロカーボン産業都市

基本目標 3 目指そう！資源が循環する053のまち

基本目標 4 守ろう！豊かな自然とみんなの未来

## 〈ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！〉



- 令和5年度～6年度にかけて、「CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub> (コツコツ) いこう♪ 次世代のために」をスローガンに大作戦事業を展開。
- 環境基本計画の4つの基本目標を柱とし、2か年で約130の事業を実施、イベント等参加者数は累計7万人以上にのぼった。



〈530 (ごみゼロ) の日〉



〈創蓄省エネルギー工作教室〉



〈ゼロカーボン企業見学ツアー〉



〈せせらぎスクール〉



〈ゼロカーボン講演会〉



〈ゼロカーボンポスターコンテスト〉



(令和7年度最優秀賞作品)

〈ゼロカーボンかるた大会〉



〈突撃！とまエコ企業！〉



〈森のお手入れ体験〉



大作戦事業終了後においても、引き続き様々な普及啓発イベントを実施！

基本目標 1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

①ゼロカーボン出前講座

クイズなどを交えながら「楽しく、分かりやすく！」を  
モットーにゼロカーボンについて学びました



基本目標 3 目指そう！資源が循環する053のまち

②CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>おうちで！ゼロカーボン！

夏休み・冬休み期間中に家庭でできるゼロカー  
ボンの取組を実践しました！



③ゼロカーボンスクールチャレンジ宣言！

①・②で学んだことを生かし、各校が「力を入れて  
チャレンジするゼロカーボンの取組」を宣言しまし  
た！



市内全小・中学校のこどもたちによるゼロカーボンの  
取組が高く評価され経済産業省北海道経済産業局から  
**顕彰**を受けました！



全校分の宣言動画 ↑



## 基本目標 1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし



## 基本目標 2 実現しよう！ゼロカーボン産業都市

- 道内随一の工業都市の特徴を最大限活用するため、複数の産業施設に大規模なPVを設置し、産業部門のCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減すると同時に、そこで得られる再エネ余剰電力と地域振興費を活用して、民生部門の脱炭素化と地域課題解決を図り、産業の取組が民生に資するモデルを構築する。
- 西部工業基地への太陽光発電設備設置は令和8年度から順次設置工事が行われる予定
- 勇払地域への再エネ電気メニューの提供は、今年度開始を目指して関係者と調整中

### 【計画タイトル】

ダブルポートシティ苫小牧の次世代エネルギー供給拠点形成への挑戦

### 【計画サブタイトル】

産業(立地企業)の脱炭素化が民生(市街地)のゼロカーボンと地域振興に資する新たなPPAモデルの構築

### 【主提案者】

- 苫小牧市

### 【共同提案者】

- 出光興産(株)
- トヨタ自動車北海道(株)
- 北海道電力(株)
- 勇払自治会
- 勇払商工振興会
- 苫小牧港管理組合
- (株)バルポート北海道
- 苫小牧信用金庫
- 三井住友信託銀行(株)

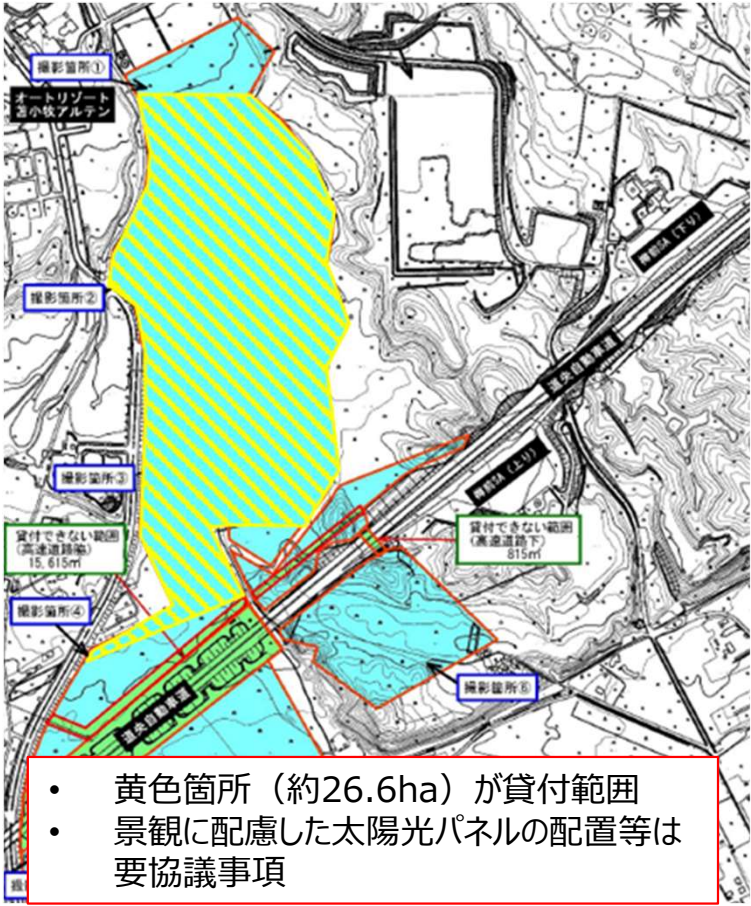
### 【事業計画概要図】



## 基本目標2 実現しよう！ゼロカーボン産業都市

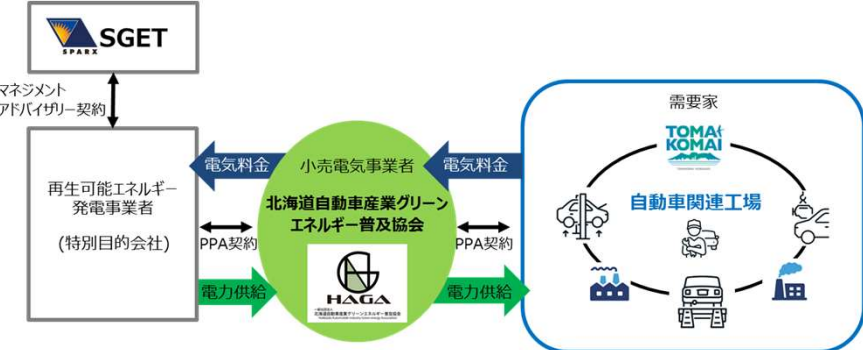
〈受託候補者〉 スパークス・グリーンエナジー & テクノロジー(株)  
 〈提案内容の概要〉

項目	内容
設置容量	AC 19,900kW、DC 35,200kW
発電事業期間	令和12年度から25年間 (令和10年度～11年度 現地工事) ✓ FIP認定取得予定
CO <sub>2</sub> 削減量	約 20,000 t-CO <sub>2</sub> /年 ✓ 一般家庭約4,000世帯/年に相当
供給先	市内の自動車関連企業 ✓ トヨタ自動車北海道(株)が主体となる小売電気事業者「一般社団法人北海道自動車産業グリーンエネルギー普及協会(HAGA)」を通じて、 <b>発電した再生電力を100%市内需要家に供給</b> ✓ 地産地消の太陽光発電事業としては市内最大規模
周辺環境・景観への配慮	✓ 自然との調和を図る ✓ 道路（高速道路含む）への影響を評価した反射抑制 ✓ 樹木伐採範囲を最小化 ✓ 丁寧な住民説明会の実施により地域との共生を図る
地域経済への貢献	✓ 工事や維持管理において市内企業3社を活用 ✓ 市内での発電事業会社（SPC）設立による税収増
事業継続性の保証	✓ 地元金融機関からのプロジェクトファイナンスとスパークス札幌・北海道GXファンドからの出資により資金調達



- 黄色箇所（約26.6ha）が貸付範囲
- 景観に配慮した太陽光パネルの配置等は要協議事項

### 〈電力供給スキーム〉



出典：スパークス・グリーンエナジー & テクノロジーからの提案書をもとに作成

## 基本目標 2 実現しよう！ゼロカーボン産業都市

【条例名】 苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例

【公布日】 令和7年3月28日      【施行日】 令和7年6月1日

### 【目的】

脱炭素社会の実現に向けて、市内の再生可能エネルギー発電事業について必要な事項を定め、豊かな自然環境や市民の安全で安心な生活環境の保全と、地球温暖化防止対策となる再生可能エネルギー発電事業との調和を図る。

### 【概要】

- 対象は太陽光・風力発電事業とする。
- 市、事業者、土地所有者の責務と、市民の協力について明記している。
- 発電出力が10kW以上の事業（建物の屋根、又は壁面に設置するものを除く）には、禁止区域を設定し、事前協議や周辺関係者との合意形成、設備の維持管理のほか、各種届出等を義務付ける。

### 【特徴】

- 防災、自然環境等の保全、地域との共生という観点から禁止区域を設定することで、市内において再エネ事業をしてはいけないところを明確に示す。
- 事前着手から事業開始、維持管理、さらには事業の廃止までを届け出させることで、市が事業者と地域との間に入り、調整を図っていくことができる。
- 条例の運用を通じて、市内における再エネ発電量の把握に努めていくことで、市内におけるポテンシャルが高い太陽光発電を中心として、地産地消の再エネ導入の促進を図りながら2050年ゼロカーボンシティが実現するよう取り組んでいく。

再エネ発電事業者のみなさまへ

苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例（再エネ条例）が施行されました。

## 苫小牧市再エネ条例

### 再エネ条例の主なポイント

- 市内で発電出力10kW以上の太陽光又は風力発電事業が対象となります
- 対象となる再エネ発電事業を計画している事業者は、はじめにゼロカーボン推進室との事前協議を行う必要があります  
※その後、他の各種届出等の届出が必要となります
- 再エネ発電事業が禁止される区域があります
- 既に市内で再エネ発電を行っている場合でも、年1回の維持管理報告が義務付けられます

【お問い合わせ先】  
TEL：0144-57-3666  
苫小牧市 環境衛生部 ゼロカーボン推進室  
〒053-1364 苫小牧市沼ノ端2番地の25  
※詳細は二次元コードから苫小牧市再エネ条例ホームページをご覧ください。  
手続き方法などを解説したガイドライン等を掲載しています。



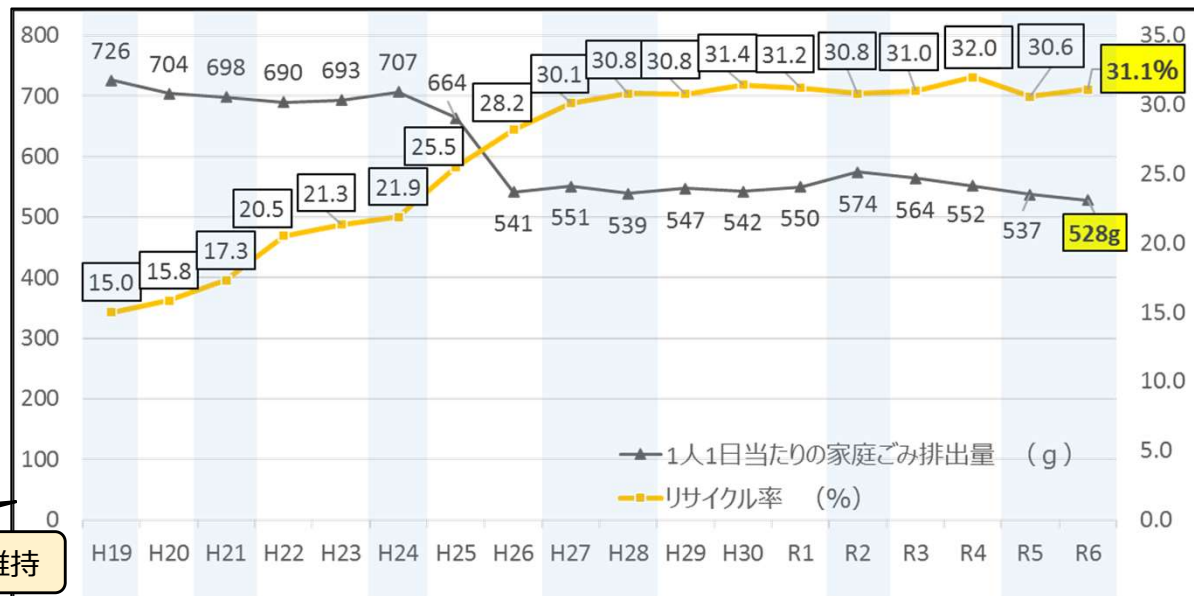


### 基本目標 3 目指そう！資源が循環する053のまち

- 本市は、廃棄物の適正処理と資源循環型社会の実現を目指し、基本理念として「053（ゼロごみ）のまち とまこまい」を掲げている。
- ごみの減量・リサイクル等については、「**苫小牧市廃棄物減量等推進審議会**」の中で審議。
- 「**苫小牧市一般廃棄物処理基本計画**」では、循環型社会の構築を目指し、本市が今後進める基本方針や施策等を定めている。

道内主要 10 市におけるリサイクル率は令和6年度現在で 11 連続トップを維持

〈リサイクル率と 1 人 1 日当たりの家庭ごみ排出量の推移〉



### 基本目標 4 守ろう！豊かな自然とみんなの未来

- 本市は、樽前山やラムサール条約登録湿地のウトナイ湖や勇払原野などの豊かな自然に囲まれている。
- 自然環境の保全については、「**苫小牧市自然環境保全審議会**」の中で審議。
- 健全な生態系を活用し、産業と環境が両立する持続可能で魅力的な地域づくりを進めるため「**苫小牧市生物多様性地域戦略**」を令和7年9月に策定し、「生物の多様性をより良くしながら守り、将来にわたって資源として使い続けることができるようになるための考え方や施策」を定めている。





## 〈国〉

### 地球温暖化対策計画

令和7年2月改定



2035年度**60%**、2040年度**73%**削減目標を新たに設定（2013年度比）

- ✓ 次期削減目標を新たに設定することで中長期的な予見可能性を高め、**脱炭素と経済成長の同時実現**に向け、**G X投資を加速**していく
- ✓ 目標の達成に向け、**エネルギー基本計画及びG X 2040ビジョンと一体的**に対策・施策を実施

## 〈北海道〉

### ゼロカーボン北海道推進計画（第2次）

令和8年3月改定



2035年度**62%**、2040年度**76%**削減目標を新たに設定（2013年度比）

- ✓ 豊かな地域資源を活かした**再エネの地産地消**を進め、**産業振興やレジリエンス強化**など様々な**地域課題の解決や魅力と質の向上を実現**する
- ✓ **全国随一の再エネポテンシャル**を活かし、**地域と共生した良質な投資を呼び込む**ことで、**環境と経済の好循環を実現し**、**全国・世界の地球温暖化防止対策に貢献**する。



## 〈市〉



### 【計画期間】2023年～2030年（8年間）

⇒中間年となる4年目（今年度）に計画の見直しの検討を行うこととしている

本市においても国や道計画との整合性を保ちながら、新たに2035年度、2040年度における温室効果ガス削減目標の設定するほか、昨今のG X施策の進展など、著しい状況変化を踏まえたうえで、より地域の特性に沿った計画とする必要があることを踏まえ、**中間見直しではなく計画改定**とする。

## 主な改定方針

- ✓ 国や道の計画を踏まえ、新たに2035年度、2040年度における温室効果ガス削減目標の設定し、その実現に向けた実行性のある対策・施策を検討
- ✓ 特に2030年度までの削減目標については、地域の実態を反映した具体的な数字の裏付けを行う

## 〈主な検討項目〉

項目	内容
(1) 環境基本計画における基本的事項の整理	環境基本計画における「目指すべき環境」の分野及び基本目標について、現計画の基本的事項を整理した上で、本市の特性及び環境に関する課題等をもとに、本市が目指すべき環境の将来像を検討する。
(2) 施策評価・分析	現計画における施策の達成状況の評価を行う。また、課題・問題点と市民の環境意識やニーズを考察・分析し、基本施策や推進体制、進捗管理方法を見直す。
(3) 関連計画等の整理	国や北海道、苫小牧市の関連計画及び施策等について情報収集、整理する。また、民間事業者等によるGX・脱炭素プロジェクトについても調査する。
(4) 市内における次世代エネルギーの需要ポテンシャル調査	水素等の次世代エネルギー関連施策を計画に反映させるため、市内の需要ポテンシャルを推計するための調査を行う。
(5) 温室効果ガス排出量算定方法等の調査・手法分析	地域の実態を反映できる、温室効果ガス排出量の算定方法や手法の検討を行う。
(6) 温室効果ガス削減目標の検討	各調査結果をまとめ、国や道の計画を踏まえた2030年度、2035年度、2040年度における温室効果ガス削減目標の設定及び、その実現に向けた実行性のある対策、施策を検討する。とりわけ2030年度については、地域の実態を反映した具体的な数字の裏付けを行う。

## 〈計画改定 スケジュール（予定）〉

No.	項目	時期	備考
1	第1回環境審議会	令和8年5月下旬	諮問、部会設置
2	<b>第1回部会</b>	<b>令和8年6月下旬</b>	<b>改定方針等の説明、質疑及び意見交換等</b>
3	<b>第2回部会</b>	<b>令和8年8月中</b>	<b>途中経過報告、質疑及び意見交換等</b>
4	市民説明会	令和8年10月下旬	市民からの意見聴取
5	<b>第3回部会</b>	<b>令和8年10月下旬</b>	<b>素案の説明、質疑及び意見交換等</b>
6	第2回環境審議会	令和8年11月上旬	素案及び答申案についての説明
7	答申	令和8年11月上旬	
8	12月市議会定例会	令和8年12月上旬	素案の提出
9	パブリックコメントの募集	令和8年12月中旬～令和9年1月下旬	市民からの意見を募集
10	2月市議会定例会	2月中旬	成案提出
11	計画策定・納品	令和9年3月末	

**環境審議会部会を設置**し、改定にあたり詳細な議論を行う。（計3回の開催を予定）